



東日本大震災から15年、そして 福島第一原子力発電所爆発事故からも15年

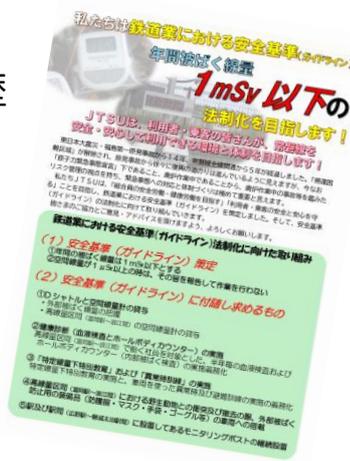


未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」の発災から15年が経ちました。被災地はまだ復興の道半ばであり、15年が経過しても人々の心の中に深い傷跡を残しています。またこの地震によって福島第一原子力発電所の機能が停止し、爆発事故が発生しました。この事故により発令された「原子力緊急事態宣言」はいまも解

除されておらず、常磐線沿線で働く仲間たちは、放射線による健康への不安と隣合わせで線量計を持ちながら業務にあたっています。

JTSUでは、2020年の結成時から組合員の声をもとにして、過去の歴史から真の復興とは何かを継続して学ぶ「グリーンジョブ研修フクシマ」や、福島県・富岡町の「とみおかワイナリーのボランティア活動」などの取り組みを通じて「安全労働」や「健康労働」とはどうあるべきか、復興を通じて何が目指されているのかを考えてきました。そして2025年には「常磐線全線開通に伴う総合労働政策(最終報告)を取りまとめ、鉄道業における放射線被ばくの安全基準の法制化を求めて取り組みをつくり出しています。また、“社会連帯”の視点からワーカーズコープの皆さんと一緒に防災を意識したポールdeウォークを各地で開催するなど、新たな活動も徐々につくり出しています。

JTSUは、命を守るための防災・減災の必要性を再認識するとともに、健康第一で安心して働ける労働環境のあり方、被災地域との社会連帯を通じたまちの復興などをこれからも考えていきます。



JTSUは未来を見据えた「安全・安心」で「持続可能な社会」の実現に向けた取り組みを展開していきます！



JTSUは持続可能な開発目標 (SDGs) を応援しています。